

全国学力・学習状況調査

小学校6年		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平成24年度	本市平均正答率	79.4	52.2	70.4	56.1	59.7
	全国平均正答率	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9
	全国平均正答率との差	-2.2	-3.4	-2.9	-2.8	-1.2
	全国平均正答率に対する割合	97.3%	93.9%	96.0%	95.2%	98.0%
平成25年度	本市平均正答率	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国平均正答率	62.7	49.4	77.2	58.4	
	全国平均正答率との差	-2.4	-3.1	-2.6	-1.9	
	全国平均正答率に対する割合	96.2%	93.7%	96.6%	96.7%	
平成26年度	本市平均正答率	69.1	52.6	76.2	55.4	
	全国平均正答率	72.9	55.5	78.1	58.2	
	全国平均正答率との差	-3.8	-2.9	-1.9	-2.8	
	全国平均正答率に対する割合	94.8%	94.8%	97.6%	95.2%	

中学校3年		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平成24年度	本市平均正答率	73.5	61.1	58.6	43.8	48.6
	全国平均正答率	75.1	63.3	62.1	49.3	51.0
	全国平均正答率との差	-1.6	-2.2	-3.5	-5.5	-2.4
	全国平均正答率に対する割合	97.9%	96.5%	94.4%	88.8%	95.3%
平成25年度	本市平均正答率	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国平均正答率	76.4	67.4	63.7	41.5	
	全国平均正答率との差	-1.7	-2.4	-3.4	-3.3	
	全国平均正答率に対する割合	97.8%	96.4%	94.7%	92.0%	
平成26年度	本市平均正答率	77.2	47.6	62.4	54.4	
	全国平均正答率	79.4	51.0	67.4	59.8	
	全国平均正答率との差	-2.2	-3.4	-5.0	-5.4	
	全国平均正答率に対する割合	97.2%	93.3%	92.6%	91.0%	

○ 小学校では、「知識」に関する問題、「活用」に関する問題とも、全国平均正答率を下回っている。全国平均正答率を100%として経年比較すると、国語Bと算数Aは全国平均正答率に近づいている。国語Aはやや下降傾向、算数Bは一進一退の傾向にある。

○ 中学校では、「知識」に関する問題、「活用」に関する問題とも、全国平均正答率を下回っている。全国平均正答率を100%として経年比較すると、国語Aは同程度で推移し、国語Bは今年度下降し、数学A、Bは一進一退の傾向にある。

※ Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題である。

※ 全国平均正答率は、平均正答数を百分率で表示したもの（平均正答数/設問数）であり、全国（公立）の数値である。

学習や生活の状況

<家庭学習等>

- 学校以外（塾、家庭教師含む）の学習時間では、小学校中学校ともに全くしない児童生徒の割合は減少しているが、1時間以上学習している児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学校中学校ともに下回っている。
- 小学校では1時間以上学習している児童の割合が増加している。中学校では、平日3時間以上学習している生徒、全くしない生徒の割合は全国よりも多く、2極化の傾向が継続している。
- 「読書の時間」や「図書館の利用」は増加傾向にあり、全国と同程度で継続している。

<携帯電話やスマートフォン・テレビ・ゲーム・インターネット等>

- 携帯電話やスマートフォンを含めたテレビゲームをする時間は増加傾向にあり、小学校中学校とも全国を上回っている。

<学校生活>

- 「学校に行くのは楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えた児童生徒の割合は、小学校中学校ともに、増加傾向にあり、全国と同程度で継続している。

<基本的な生活習慣>

- 朝食の摂食率は、小学校では全国を若干下回り、中学校では全国と同程度である。
- 起床時間・就寝時間が決まっている児童生徒の割合は、小学校中学校とも全国と同程度である。

<家庭でのコミュニケーション>

- 家の人と学校の出来事について話をする児童生徒は増加傾向にあり、小学校中学校とも全国と同程度である。
- 家の人が学校行事に来る割合は、小学校では全国と同程度、中学校では上回っている。

<自尊意識・規範意識>

- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「自分にはよいところがある」「将来の夢や希望を持っている」と肯定的に答えた児童生徒の割合は、小学校中学校とも全国と同程度である。
- 「学校のきまり（規則）を守っている」児童生徒の割合は、小学校中学校とも全国と同程度である。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答える児童生徒の割合は、小学校中学校とも全国と同程度である。

成果と課題① 正答率の分布等から

- 小学校の無解答率が、国語A・B、算数Bにおいて改善されている。
- 中学校では、国語A・B、数学Bにおいて、全国平均正答率より上位の人数が増加した。
- 中学校においては、無解答率が全国よりも高い傾向が続いている。また、全国に比べ、B問題において、正答数が0～4問の児童生徒が多い状況にある。
- 小学校・中学校ともに、正答率が平均をやや下回る層が多く、正答率の高い層が少ないという傾向が、続いている。

成果と課題② 領域や観点から

- 小学校算数では、異分分数の加法の計算において、全国を上回っている。中学校国語では、歴史的仮名遣いを直す問題において、全国を上回っている。
- 国語科においては、小学校・中学校ともに基礎的な言語知識・理解に課題が見られる。また、小学校では、立場を明確にして質問や意見を述べること。中学校では、文章の内容について、根拠を明確にして、自分の考えを書くこと。など記述する問題に依然課題が見られる。
- 算数・数学においては、小学校・中学校ともに基礎的な算数・数学の用語に対する理解に課題が見られる。小学校では、規則性を見出し数量の関係を筋道立てて説明すること。中学校では、事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明すること。など記述の問題に依然課題が見られる。

成果と課題③ 学習指導や研修の在り方から

- 小学校では、講師の招聘や授業研究を行なう校内研修は全国を上回っている。
- 基礎基本を定着するための補充学習について、全国を下回り課題が見られる。
- 家庭学習の課題（宿題）を与えること、教職員の共通理解、保護者に対する働きかけについて、よく行っている学校は、全国を下回り、依然課題が見られる。
- 家庭学習の課題の評価・指導について、小学校・中学校国語で全国を下回り課題が見られる。

成果と課題④ 生活習慣・学習習慣から

- 小学校・中学校ともに、1日あたり30分以上読書をする児童生徒の割合は若干増加傾向にあり、全国を上回った。
- 家庭学習では、全くしない児童生徒が減少し改善傾向にはあるが、1時間以上学習する児童生徒は、全国に比べ大きく下回り、学習時間の不足が課題である。
- メディアへの接触時間はテレビやDVDから、携帯電話やスマートフォンに移行しつつある。しかし、どれも全国を若干上回り、課題がある。

成果と課題⑤ 規範意識や体験から

- 自尊感情や規範意識については、全国と同程度であり、若干増加傾向が見られる。
- 友達に自分の思いを伝えたり、聞いたりすることは全国と同程度であり、学校での人間関係も全国と同程度と言える。
- 「将来の夢や目標をもっているか」については、当てはまらないと答えた児童生徒が増加傾向にあり、課題がある。
- 地域行事へ参加する児童生徒の割合は、増加傾向にあるが、地域社会に対する関心は、全国を下回る状況が継続している。

継続的な取組を

—学校・家庭・地域の連携・協力のもと、全体の底上げを目指して地道に、徹底して取り組む—

各学校の学力向上プランにおける取組

基礎・基本及び活用力を高める取組

- 朝自習など特設時間の取組
 - ・朝自習での基礎基本の徹底 ・漢字、計算、暗唱コンクール
 - ・昼食準備時間や帰りの会等での補充学習 ・朝読書
- 学力調査の問題などを利用した取組
 - ・活用力を高めるワークの活用 ・CRTのアシストシートの活用
 - ・チャレンジシートの活用 ・学力調査の過去問題の活用
- 学力調査の結果を利用した取組
 - ・学力調査結果検証職員会議 ・自校採点の実施と活用
 - ・学校HP・学校便りでの「学力向上『決意表明』」

授業改善の取組

- 学習規律の徹底
- 「めあて」「まとめ」の板書
- 発問の工夫
- 1時間の授業内での話し合い活動の設定
- まとめ（振り返り）の時間の確保
- 定期テスト・小テストにおいて活用力を問う問題の出題
- 中学校での教科を超えての研究授業の実施

家庭学習・生活習慣改善の取組

- 家庭学習について全職員の共通理解を図り、宿題に取り組む
- 調べたり、文章を書いたりする宿題に取り組む
- 家庭での学習方法を具体例を挙げて示す
- 宿題・家庭学習は必ず点検し評価する
- 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
 - ・「家庭学習約束宣言シート」で月に一回は点検
 - ・「わたしの読書記録」の活用
 - ・「自主学習ノート」等、学校独自の取組の継続

北九州市子どもの未来をひらく教育プラン